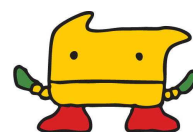


嬉 望

第 8 号
平成25年 8 月 21 日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



ひょうちゃん

大学マスコット

2年生、8週間の インターンシップへ

学校経営コースでは、2年次に8週間の「学校経営専門職」または「教育行政専門職」のインターンシップを行うことが義務づけられています。

すでにインターンシップが始まっている学校・教育委員会もあります。今回の「嬉望」では、各2年生が現在取り組んでいることや、インターンシップでの課題についてお伝えします。(文中【学校】【行政】とあるのは、各院生のインターンシップの種類です)

【インターンシップの目的】

(1) 学校経営専門職
長期間学校経営に参画し、学校経営の実際や校長・教頭のリーダーシップを観察・体験し、学校の経営者としての資質力量を養うこと。

(2) 教育行政専門職

長期間教育行政に参画し、施策立案の実際や指導主事の職務を観察・体験し、教育行政の担当者としての資質力量を養うこと。

そして、学校改善や教育行政改善のための課題発見・形成力を開発することも重要なポイントです。

【学校】改善プランに関しては、

今回はAI（アプリシエイティブ・インクワイアリ）で書くかと思っただけで、そのために行う校内研修について、質問事項の検討や文献の調査をしています。質問事項というのは、本校のポジティブ・コアを探すために、強みや価値を抽出するものです（SWOT分析のプラス部分のみを考えていこうという趣旨です）。私の場合、普段から現任校にはよく行っています。が、夏季休業中は時間の余裕が比較あるので、2学期に研究授業を行う若手教員の指導案の検討や助言などもしています。

【学校】教育実習生等を対象とした

カリキュラム評価アンケートを準備しています。大学で「教育」について学んだ卒業生に、現任校の足りない部分や良い部分を指摘してもらうことを期待して実施するものです。現任校は生徒にどのような力をつけているのか、どのような力をつけていけるべきなのか、をテーマとして、教育課程表には載っていない部分の教育内容（潜在的カリキュラム）について調査して「改善プラン」の基礎資料を得ることを目的としています。

【学校】改善プランを通じて

研究したい課題は次の3点です。①学校運営の活性化、教職員の意識改革の方策について（各委員会・プロジェクトの活動・取組の検証、学年主任の職務内容、学年会の実施状況について）②信頼される学校、評価を活かす学校づくりについて（教職員評価の1学期結果を活かした2学期の取組・活動、児童・保護者評価の在り方）③校内における人材育成の在り方（校内研究の実施状況、O2Oの実施状況と開発）

【学校】私は、教職員の人材育成を

テーマにこれまで学んできました。インターンシップでは校内授業研究会のしくみづくりを研究課題として取り組み、その成果を基にした学校改善プランを構想しています。生徒の生きる力を育むためには、まず教員自身が、常に学び続ける向上心を持つことが大切だと考えます。「学び続ける教員と生徒」を育成するための学ぶ場づくりをしかけられるよう日々努力を重ねたいと考えています。

【行政】自分の勤務当時から

すると、管理職を始めとする職員が大きく入れ替わり、事業内容も異なっていることから、改善プランの方向性に関しては、インターンシップ開始後、実態把握がある程度進んでから定めたいと考えています。現段階では、インターンシップ中に依頼されている管理職研修の内容について、これまでの授業内容を見直し、題材となるものを探っているところなんです。

【学校】以前立案した8週間の

計画を基に、現在最終確認を行っています。管理職の先生を始めとし、多くの方々から指導していただく学校運営に関する視点、組織、事業、活動等の具体的な内容を再検討しています。また、インターンシップ中に実施予定のアンケートを作成中です。これにより、教員の専門性についての意識を調査し、現任校の研修システムについて検証したいと考えています。

【学校】インターンシップ開始

前に、現任校の現状、課題等を踏まえ、改善プランの方向性を管理職に提示させていただきました。インターンシップでは、管理職をはじめ、多くの先生方と協議を重ねながら、大学院で学んだ理論と、フィールドワークとして訪問した先進校での実践等を参考にしながら分析を深め、よりよい学校づくりへの工夫・改善の方策を提言していきたいと考えています。

【学校】改善プランは「生徒の

心に火をつける学校づくり」を軸にしようと考えています。その効果測定のために、何を指標とすべきかを探っています。また、中長期的に、どのような学校のデザインを描くことが地域と学校に貢献することになるのかについて、多くの先生方と意見交換したいと考えています。

【教育】現任の町では4月に学

校再編が完了し、3幼保・3小学校・1中学校となりました。現任校も開校して5ヶ月です。インターンシップでは、統合による効果や成果、課題を把握し、それらに基づいて、スマール・スケールの町のメリットを活かした今後の教育の在り方を考察します。そのために現在は、幼保・小・中の継続的で連携した教育、学校運営協議会設置による自律的な経営の推進に課題意識をもって、事例や文献から情報収集を行っています。

フィールドワークだより
 大学院は夏季休業に入りましたが、院生は各地でフィールドワークに活発に取り組んでいます。その一部をご紹介します。

九重町教育委員会「学校管理職・学校幹部職員研修会」に参加（大分）

8月5日（月）に、2年生3名が大分県九重町教育委員会の「学校管理職・学校幹部職員研修会」に全体のファシリテーターとして参加しました。

これは九重町教委が取り組んでいる文部科学省委託研究「学校のマネジメント力向上を強化するための実践研究」に、アドバイザーとして院生が参加している一連の流れによるものです。
 すでに、院生は5月から毎月九重町を訪問し、教育長をはじめとする町教委事務局職員との事前の調整や、町内の全小中学校を回って管理職や主幹教諭等との面談をし、九重町の現状分析を行っています。

今回は、小学校6校と中学校1校をひとつの学校として考える「このえ学園構想」に向け、学校管理職・学校幹部職員・町教委事務局職員を



対象に、町の子どもの課題の共有と目標の設定を目的としたワークショップ形式の研修会のサポートを行いました。

まだ構想はスタートしたばかりですが、これからも院生がファシリテーターとして、各校園で同様の研修のサポートを行い、全町民・全教職員をあげての「このえ学園」を創りあげる支援ができればと思っています。

また、今月末からは院生2名が九重町教育委員会事務局にインターンシップでお世話になります。よろしくお願ひいたします。

英語ディベートセミナーに参加（山口）

7月27日（土）に山口県セミナーパークで開催された「山口県高校生英語ディベートセミナー」に、2年生が参加しました。

このセミナーは山口県教育委員会の新規事業「英語で発信チャレンジ事業」の1つであり、英語による実践的なコミュニケーション能力の育成を図ることを目的としています。

今回は山口県内の公立高校8校から40名の生徒と13名の教員が参加しました。全国高校英語ディベート連盟（EJEB）の常任理事で、岐阜聖徳学園高等学校教諭の宮川純一氏を講師に招き、午前中はディベートの流れや各パートの役割等に関する講義、午後からは「コメの関税を撤廃すべき」の論題について、「宮川教諭vs生徒」のディベートが行われました。
 院生の現任校からも生徒2名と英語科主任の参加があり、「学校改善プラン」の作成に向けて、グローバル人材育成の視点を取り入れる参考となりました。

11月2日（土）には「第1

回山口県高校生英語ディベート大会」が開催されることになっており、その大会に向けた各高校の取組も注目されます。

全国コミュニケーション・スクール研究大会に参加（京都）

7月30日（火）に国立京都国際会館で行われた、全国コミュニケーション・スクール研究会に、1年生が6名、2年生が3名参加しました。

これは全国コミュニケーション・スクール連絡協議会、文部科学省および京都市教育委員会の主催により、全国のコミュニケーション・スクール（以下、CS）関係者が一堂に会して、実践事例を交流する会です。昨年度の福岡県春日市に続いての2回目の開催ですが、今年度は京都市名誉市民表彰式（京都大学山中伸弥氏が受賞）も合同開催されました。

会では、日本IBM（株）相談役北城恪太郎氏による講演「今後の我が国の教育に期待すること」や、「『地域とともにある学校づくり』とコミュニケーション・スクール」と題した教育長リレー討議（由利本莊市・津市・京都市）、そして山口市・岡山市・京都市

の実践発表が行われましたが、色々と示唆に富んだ内容であったように思います。

我々院生の派遣元にも、すでにCSが導入されている、または導入を検討している学校や教育委員会が存在します。「開かれた学校づくり」のひとつの例として、CSの制度的側面だけではなく、機能的側面をどのように充実させていくのかということの大切さを改めて実感しました。

また、会場では昨年度末に学校経営コースを修了された岩国市教育委員会の平原主幹、柳井市教育委員会の吉岡課長補佐にお目にかかりました。それぞれの現場に戻られても、さらに学びを深めていくこうとする先輩方の姿勢を目の当たりにし、我々院生も改めて身が引き締まる気持ちになりました。

